

皆様、おはようございます。いよいよ春のあたたかさを感じるようになってまいりました。そればかりか、日中は熱さを感じるようにさえなりました。3月も折り返し地点、学校では次々と卒業式が行われています。もう半月もすれば4月。新年度の始まりです。寒さからも解放され、いよいよ新たな旅立ちというこの時期、私たちは今日主からいただきましたこの御言葉を心に味わいたいと思います。

14:1 「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。」

今日の聖書の箇所ほど、イエス様がご自身を指して、「わたし」という言葉を連発しておられる箇所はないように思います。

14:1 「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。」

14:2 わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言うておいたであろう。

14:3 そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。

14:4 わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている」。

14:6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

14:7 もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである」。

14:9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。

14:10 わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたと話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。

14:11 わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。

14:12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

14:13 わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

14:14 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

ずっとずっと、イエス様は弟子たちに私を信じなさい。私から離れずに私を信じ続けなさい。私に来なさい。私が満ち、真理、命なのだから。私の名を呼んでわたしに願いなさい。私はかなえることができるから、私のもとに来なさいと主は大胆にもストレートに語られます。

私たちは長らく「信仰」について深く考えてまいりました。信仰を知り極めようとしてまいりました。

信仰を深めようとしてまいりました。しかし信仰とは実に単純なことです。それはホセア書に書いてある通りです。

ホセア 6:1 「さあ、わたしたちは主に帰ろう。主はわたしたちをかき裂かれたが、またいやし、わたしたちを打たれたが、また包んでくださるからだ。

6:2 主は、ふつかの後、わたしたちを生かし、三日目にわたしたちを立たせられる。わたしたちはみ前で生きる。

6:3 わたしたちは主を知ろう、せつに主を知ること求めよう。主はあしたの光のように必ず現れいで、冬の雨のように、わたしたちに臨み、春の雨のように地を潤される」。

イエス様はこの世界にお生まれになられ、その尊い命を捧げて私たちの罪の刑罰の身代わりとなって十字架について下さいました。私たちは、そこまでして愛して下さいた父なる神様と、イエス様を信じて、その愛と正しさ、憐れみと恵みによってどこまでも神様とイエス様を信じて生きるのです。困難があろうとも、嵐があろうとも、行先に暗き影が漂おうとも、私たちは恐れず、心を騒がせずに生きるのです。これが主が私たちに願っておられることです。

1 「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。

2 わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。

3 そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。

私たちは、やがて行くべきところが備えられているからです。そこに行けば、黙示録 2 1 章にあるような安息が備えられているからです。

「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいて、人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」。

この地上世界では、パンを食べること、住むこと、着ること、生きることに苦勞がありました。病があり、苦しみがありました。傷つけられたり、青天の霹靂があつたり、思い通りにいかなかったり、色々な困難があつたのですが、父の家の住まいには安息があります。満たしがあります。主イエスは場所の用意をして、また迎えに来てくださいます。私たちをそこに招き入れて下さいます。心を騒がせ、私たちを怯ませる色々な困難がありますが、神様を見つめたいと思います。それが私たちが神様を信じるという事なのではないでしょうか。どんなときにも信頼するという事が信仰なのではないでしょうか。もちろん聖書の知識が私たちを正しい信仰に導きますが、信仰は知識だけで成り立つものではありません。その知識に人生をかけていくという私たちの思い入れが大切です。

マタイ 6:22 目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだろ

う。

6:23 しかし、あなたの目が悪ければ、全身も暗いだろう。だから、もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであろう。

6:24 だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

6:25 それだから、あなたがたに言う。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。

6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。

6:27 あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

6:30 きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さ

るのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。

6:32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。

今日の聖書の個所には、「わたし」という言葉の繰り返しと共に、「信じる」、「知る」、「見る」という言葉が印象的に繰り返されています。

4 わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている」。

5 トマスはイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう」。

7 もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである」

この「わかる」とか、知るというという事は、私たちにとって重要な言葉です。分かるという事は私たちが最も大切にしているものです。先行きが分からなければ私たちは不安にもなれば、信じる事が出来なくなるのです。はっきりとしたしるしや証拠がなければ、はっきりと知ることがなければ、私たちは信じる事が出来ないとしばしば口にします。

霧の中にいて、行くべき道を知らない私たちが、どうしてイエス様の行かれるところを知っているというのでしょうか。

「わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている」

トマスが勇気を振り絞って主に聞いてくれた質問は、どれほど私たちにとって貴重なものであったのでしょうか。

5 トマスはイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう」。

私たちは、分からないのです。知らないのです。どうして真理の道など知る由があるのでしょうか。

イエス様が向かわれる道など知り得まじょうか。

トマスの質問の答えとして、あのイエス様の、あまりにも有名なお言葉が語られました。

6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

7 もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父

を知っており、またすでに父を見たのである」。

真理など知らなくてもよい、道など究めなくともよい、命など自分で得られなくてもよい、私を知っていればそれでよい。私を見ていればそれでよい。私が真理、道、命である。わがもとに来なさい。私を知っていれば父を知っており、すでに父を見ているのだから！

あまりにもストレートなイエス様のお言葉です。「わたし」という言葉の繰り返しに呼応して、今日の聖書の箇所にはどれだけ主の「あなた」との呼びかけの多いことでしょうか。まるでイエス様の恋文を読んでいるように、「わたし」であるイエス様は私たちが恋い慕って呼び求め続けておられるのです。どうしてこのお方を信じないことがあるのでしょうか。このお方を知り、このお方を見ていけば、私たちには何の不足もないのです。

8 ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さいれば、わたしたちは満足します」。

9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。

10 わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。



私たちは、主イエス様を見ているのでしょうか。見ているのに知らないという事がないのでしょうか。見ているのに、知っているのに、満足していないという欠けのある状態のままになっていないのでしょうか。イエス様が父なる神と共におられるお方、私たちに神様のお姿を現す、神ご自身であられるという事を信じているのでしょうか。

10 わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。

11 わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。

これだけの業をなされるからには、この方は力ある方に違いないと、私たちが分かるようにと、神様は、御子を通して様々の業を行われました。そして、何度も出てまいります、主の最大限の強調の言葉、「アーメン、アーメン」が登場いたします。

12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

「わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちに

おられて、みわざをなさっているのである。」と語られたイエス様は、私たち信じる者のうちにも神様は、イエス様になさったように働きかけて神様の御業をなさるといふ真実を語られました。

「わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。」

イエス様は、天で父のもとにおられ、私たちのために弁護し、執り成して下さり、祈り、口添えをして下さり、私たちが御業に励むことが出来るようにと計らっていて下さいます。そして驚くべきことに、主イエス様が地上で行われたよりもっと大きい業を私たち信じる者に成させてくださるといふ事を語られました。私たちはそのことを信じるでしょうか。私たちのようなものがそんなこととはあり得ませんと考えるでしょうか。

主は信じる私たちを重んじて、主の御業を行わせ、そして私たちの業を見る方々が、私たちのなせるわざを通して神様に至るように、私たちを遣わしておられるのです。その私たちの業を「見て」、神様の存在を「知って」、神様を「信じる」ために、私たちは遣わされています。

13 わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

14 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

私の名によって願う。それは「イエス様」と呼ばれる私たちの声に主はいつでも耳を傾けて下さるといふ事です。私たちはイエス様を見、イエス様に聞き、イエス様の愛を知り、イエス様のお人柄を

心得、何に対して喜ばれ、何に対してお怒りになられるのかを知り、イエス様から教えられ、イエス様を知る者とされています。このイエス様にあつて道を知り、真理を知り、命を得ています。そのようにしてイエス様を知る者に対しては、そしてイエス様との関係の内にあつて祈る者のためにはどうして願いがかなえられないことがあるのでしょうか。

12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであらう。そればかりか、もっと大きいわざをするであらう。

1 「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。」

6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」

私たちはイエス様を信じています。見えています。イエス様によって父なる神様が偉大なことをなさったという事を知っています。このイエス様をどのような状況の中でも信じぬいて、イエス様に依存して、より頼んで生きる時、主の御業を成すものになれるのです。イエス様と呼び掛けて、呼ばれる私たちの祈りは聞かれるのです。世界の所有者である神様が無尽蔵の恵みをもって私たちを満たしてくださるのです。私たちを愛して守り抜いてくださるイエス様を信じて、信じぬいて生きる。これが私たちに与えられた祝福です。そして祈り願い主の御業を現し、父なる神様の御名があがめられることが私たちの使命です。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。心を騒がせず、私を信じなさいと力強く語りかけて下さいまして、あなたのお支えをありがとうございます。心を騒がす、私たちを恐怖に陥れるもろもろの困難がありますが、あなたは私たちのため、天上に素晴らしい我が家をご用意くださり、私たちを招いて下さいますから感謝いたします。恐れを捨てて、私たちのために十字架に命を捧げて下さったイエス様に心からの信頼をおさげします。今週も守り導いてください。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン